【特集】知ってほしい！私たちの取り組み

『恩納村の福祉教育充実のために』

～村内福祉関係者との協働による取り組み～

谷茶の丘・雅　地域支援室　當山　直彦

今回は谷茶の丘・雅　地域支援室が恩納村社会福祉協議会や恩納村地域包括支援センター等と連携して村内小中学生を対象に取り組んでいる『福祉総合学習』についてご報告します。

福祉学習には幾つかのプログラムがあります。

【学習①】「〝福祉〟とはなに？」

※〝心のバリアフリー〟や〝ユニバーサルデザイン〟といった福祉の考え方を座学で学び、その後に車いすやアイマスクを使用して普段歩きなれている学校の敷地内を移動することで、どのような不便があるか実体験します。この不便さを感じることこそが〝ふだんの、くらしの、しあわせ〟を考えること、つまり「ふくし」を考える入り口となり、福祉学習のスタートとなります。村内の5つの小中学校の全学年で初回におこなわれています。

【学習②】「地域包括支援センターの役割について学ぶ」

児童生徒が恩納村地域包括支援センターを訪ねて、職員からセンターの役割や福祉制度等について説明を受けます。

高齢者が介護を必要とする状態になっても住み慣れた地域で安心して暮らしていける環境をつくるため、ひとりひとりが我が事として「自分たちに出来ることは何か」を考えてもらうきっかけとすることが目的です。

【学習③】「認知症サポーター養成講座」

これまで毎年村内5校の小学4年生を対象に行ってきた認知症サポーター養成講座を福祉学習プログラムの一つに位置付けることで福祉教育の充実を図っています。

また中学校にも講座開催を勧めており地域全体で認知症高齢者を見守る体制の強化を目指しています。

【学習④】「谷茶の丘・雅　施設見学、デイサービス交流会」

最初は緊張している生徒たちも高齢者と一緒にレクリエーションを楽しんだり、出し物を披露したりすることで緊張がほぐれうまくコミュニケーションが取れるようになることで自信に繋がります。中には将来福祉や

介護に携わる仕事に就いてみたいという声も聞かれます。

事前に認知症サポーター養成講座で学んだ認知症の方との接し方をご利用者との交流で実践することも大切にしています。

【学習⑤】「車いすサッカー」

障がい者の方たちとユニバーサルスポーツを通じて楽しみながら交流することで、相互理解を深め、『地域共生』を考えるきっかけ作りとしています。

上記以外にも「村内老人会との交流会」を企画したり、「盲導犬」やさまざまな「依存症」について学ぶ機会も提供しています。

【恩納村社会福祉協議会からのコメント】

（恩納村社協福祉活動専門員＆ボランティアコーディネーター太田千秋さんより提供）

各市町村では地域包括ケアシステム構築に向けて取り組みが進んできております。恩納村では谷茶の丘・雅がいち早く地域連携を目指し、医療・介護・地域をつなげるために活動をしていました。しかし、地域連携・協働を進めていくなかで、なぜ『ふくし』が必要なのかを伝え、住民の協力を得ていくのに恩納村社協も谷茶の丘も苦慮していました。

そのなかで、谷茶の丘・雅　地域連携室と恩納村地域包括支援センターが中心となり恩納村内小中学校で実施していた認知症サポーター養成講座と、恩納村社協がおこなっている福祉教育を連動させることで子どもたちに『ふくし』について知ってもらい、子からそのお父さん・お母さん、そしてオジー・オバーに繋がる啓発ができないかと考えて話し合いを重ねました。

話し合いでは高齢者分野だけではなくこれからの共生社会に向けて、小中学校の『総合的な学習の時間』を通じて、高齢者・障害者・児童・家庭福祉（母子保健含む）など総体的な視点での『福祉教育プログラム』の作成が急務となり、平成30年度より教育委員会の地域コーディネーターや福祉関係事業所の協力を得て各小中学校で実践していくことになりました。

恩納村社協は今後も谷茶の丘・雅　地域支援室や村内事業所と地域包括ケアシステム、地域共生社会構築を目指して連携・協働しながら、地域住民や各種団体に『ふくし』についての理解を深め、誰もが共に生きていける地域をつくりたいと考えています。

【参加した生徒の感想】

（仲泊中学校3年　金城佑茉さんより）

私が今回の福祉の学習を通して感じたことは、コミュニケーションの大切さです。より深く福祉について考えてみると助け合いは身近に多く溢れていて、私たちは周りの人に助けられているという事にも改めて気付かされました。またコミュニケーションや助け合いは人間関係や社会に出た際とても重要なことなので、これからも福祉について学ぶと共にコミュニケーション力や助け合うことを身につけていきたいと思いました。

↖4頁へ